

東大まちづくり大学院 都市デザイン演習(まちづくり演習第2)
2018 春

パブリックライフ／パブリックスペース スタジオ
—観察をベースとした公共空間の診断と改善の提案—

■担当

中島直人・鈴木俊治(芝浦工業大学／ハーツ環境デザイン)・高松誠治(スペースシンタクスジャパン)・泉山壘威

■期間

2018年4月7日～5月19日
毎週土曜日3限～5限(13時～18時10分)全6回

■対象

まちづくり大学院修士1年
(一グループは4～5名程度で構成、合計4グループを予定)

■課題

「公共空間としての駅前広場のリノベーション」

駅前広場に関して、以下のような作業を行った上で、

- 1)現在の広場の空間形態や使われ方を観察調査によって把握する
 - 2)現在の広場の空間形態や使われ方を規定する制度的要因(法制度や管理運営体制)や設計意図を把握する
- これから目指すべき駅前広場のありかた(使われ方、空間像など)を設定し、そのありかたを実現するための制度的課題の解決、空間改善アイデアを提案する。

■狙い

- ・都市空間を生み出す制度的要因についての知見を深める。
- ・都市デザイン、都市計画の基礎としての都市空間と人間行動の関係性について知見を深める。
- ・都市空間における人間行動を記録、分析、表現するための観察に基づく基本的な技術や視点を身に着ける。
- ・具体的なまち、公共空間においてデータに基づいた課題の抽出、改善の提案という一連の計画・デザインの流れを体験する。
- ・近年、歩行者空間化されつつある駅前広場におけるアクティビティの可能性を検討する。

■対象地(予定)

- ・JR山手線の特定の駅の駅前広場およびその周辺の公共空間
 - 1 東京駅丸の内口駅前広場
 - 2 新宿駅東口駅前広場
 - 2 御徒町南口駅前広場(おかちまちパンダ広場)周辺
 - 3 大塚駅東口駅前広場

■スケジュール

4月7日

- ・課題説明・解題(中島)
- ・自己紹介・調査手法レクチャー(鈴木、高松、泉山)
- ・グループ分け
- ・プレ調査計画立案エスキス

4月14日

- ・プレ調査実施
- ・調査結果とりまとめエスキス(大学に戻る)

4月21日

- ・中間発表
- ・本調査計画立案エスキス

4月28日

・本調査実施

(5月12日までの間に実施する)

5月12日

・本調査とりまとめ

・最終提案エスキス

・発表準備

5月19日

・最終講評会(五月祭)

■成績評価

基本的に最終成果物の出来栄で判定するが、途中段階での参加度合も考慮に入れる。

■主な参考文献

・ヤン・ゲール+ピアギッテ・スヴァア(鈴木俊治・高松誠治・武田重昭・中島直人訳)(2016)『パブリックライフ学入門』、鹿島出版会

・プロジェクト・フォー・パブリックスペース(鈴木俊治他訳)、『オープンスペースを魅力的にする』、学芸出版社、2005年

・『賑わいづくり施策発見マニュアル』、国総研都市施設研究室、2014年